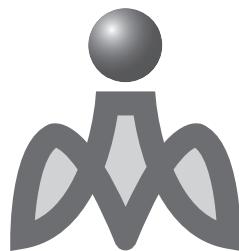


山 梨 県  
商工会地区

# 中小企業景況調査報告書

〔平成23年1月～3月実績〕  
〔平成23年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会



# 目 次

I 調査要領 .....	1
II 景況	
1. 産業全体の業況概観 .....	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概観 .....	3
(2) 主な項目でみる業況 .....	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概観 .....	6
(2) 主な項目でみる業況 .....	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概観 .....	9
(2) 主な項目でみる業況 .....	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概観 .....	12
(2) 主な項目でみる業況 .....	12



## 【I】調査要領

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 11商工会
- (2) 対象企業数 165企業
- (3) 回答企業数 165企業

### 2. 調査対象期間

第4四半期 平成23年1月～3月期  
調査時点 平成23年3月1日

### 3. 調査方法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

### 4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	計
都留市	3	2	4	6	15
韮崎市	3	3	4	5	15
南アルプス市	3	2	5	5	15
北杜市	4	2	5	4	15
笛吹市	3	2	4	6	15
上野原市	3	3	4	5	15
甲州市	3	3	4	5	15
中央市	4	2	6	3	15
富士川町	3	2	4	6	15
身延町	4	2	5	4	15
河口湖	4	2	6	3	15
計	37	25	51	52	165

### 5. その他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観・・・については、本県商工会地区の企業ばかりでなく本県全体の被調査企業（卸売業を含む）282サンプルによるものである。

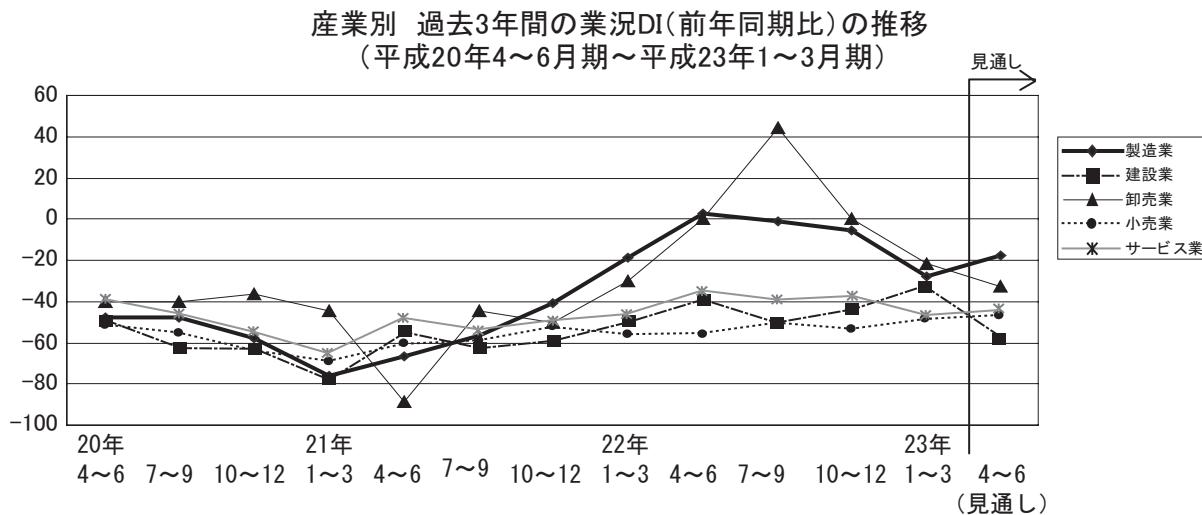
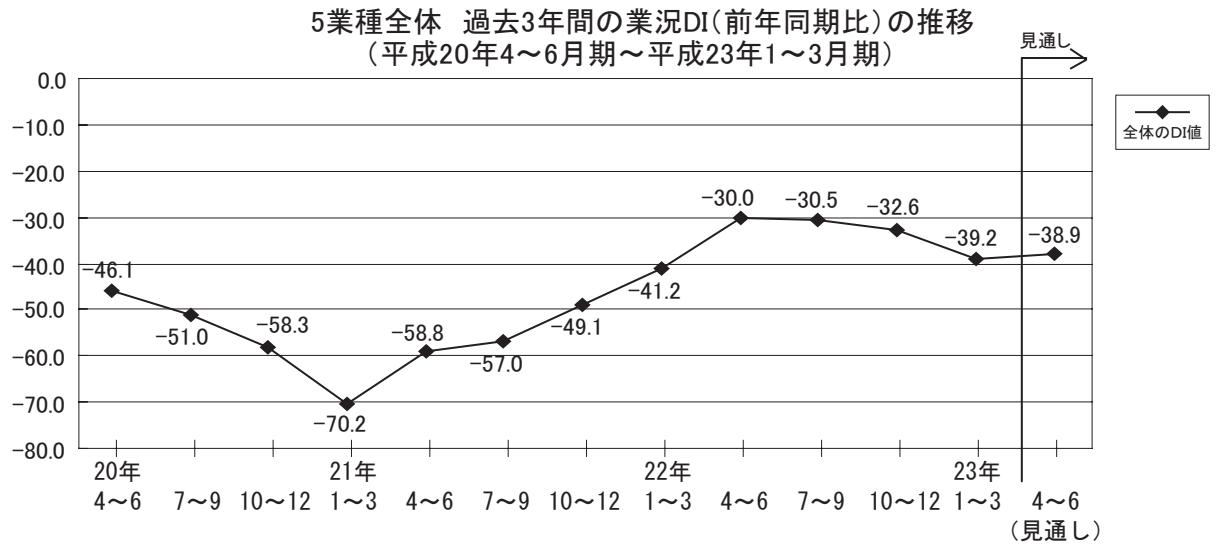
## 【II】 景況

### 1. 産業全体の業況概観

本県5業種の業況概観について、調査対象282企業のデータに基づいて産業別の業況DIを示す。まず、下記の表は5業種全体の業況判断DI等を表したものである。業況DIは前期マイナス32.6であったが、今期はマナス39.2と4期連続して悪化した。来季の見通しについては、マイナス38.9と横ばいである。

そして、下図は景況感を前年同期と比較して、過去3年間の推移を本県製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業5業種別に示したものである。卸売業が5業種の中で最もよいのであるが、前期には0.0の水面上にあったが今期はマイナス22.2と大きく落ち込んだ。次いで製造業が、前期マイナス5.2から卸売業とほぼ同じ22.8ポイント下降しマイナス28.0であった。建設業は、前期マイナス43.3から10ポイント以上の回復を見せマイナス32.5であった。小売業は、前期マイナス53.2から5ポイントほど上昇しマイナス48.1であった。最後にサービス業であるが、前期マイナス36.7から10ポイント悪化のマイナス46.8となった。

5業種の来期の見通しは、今期と比べ上昇傾向が製造業、小売業、サービス業、下降傾向にあるのが建設業と卸売業である。しかし、今期3月には未曾有の大震災とそれに伴う原子力発電所事故が起り、来期以降あらゆる産業で景気が大きく落ち込むものと懸念される。



【注記】上記の図に示す業況調査DIは、本県商工会地区の企業ばかりでなく、本県全体の被調査企業（卸売業を含む）282サンプルによるものである。

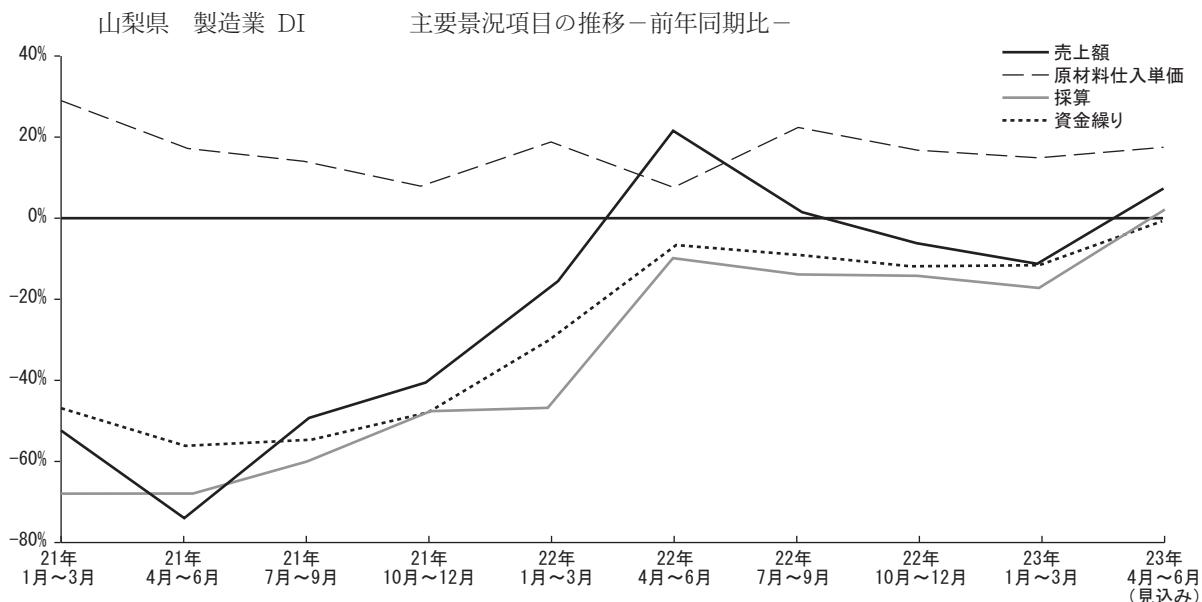
次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

## 2. 製造業の動向

### 1. 景況概観

下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。今期の売上額DIについては、前期マイナス5.5からマイナス10.9へと低下し悪化傾向が続く。来期の見通しDIは、8.1と回復期待が大きい。

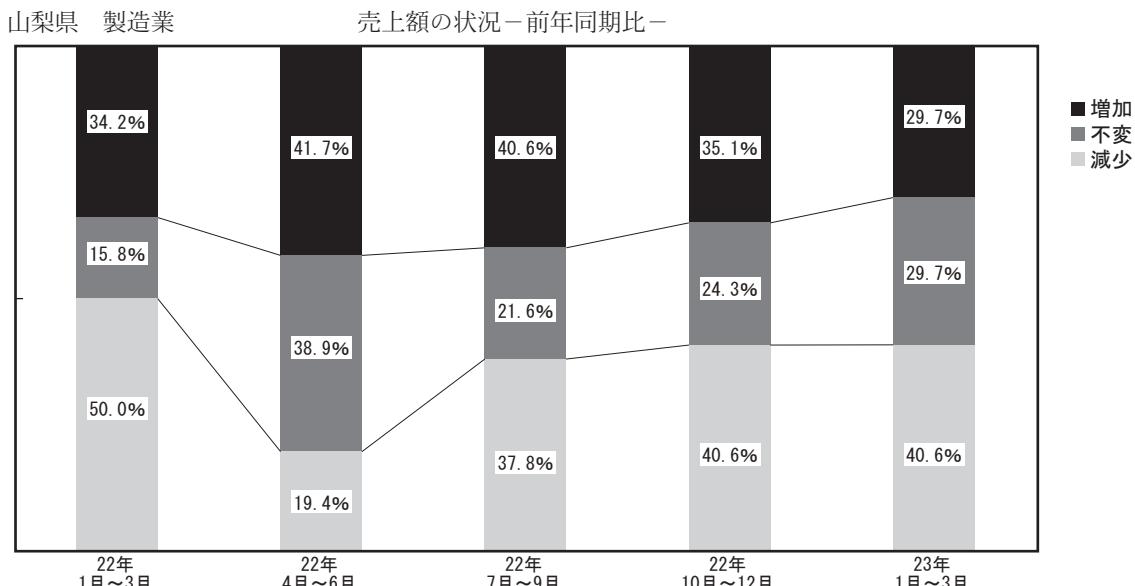
原料仕入単価DIは、前期17.6よりいくらか低下しての15.2となった。来期の見通しについては、前期並みに戻り18.2である。採算DIは、前期マイナス13.5から約3ポイントの悪化でマイナス16.7であった。来期の見通しについては2.8と、かなりの改善を予想する明るさである。資金繰りDIは、前期マイナス11.1とほとんど変わらずのマイナス11.7であった。来期の見通しDIも、採算DIと同様に明るくイープンの0.0である。製造業の来期の見通しは、全般的に良い傾向を見せているが、計画停電が実施される中で樂觀を許されなくなることが懸念される。



### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額DIマイナス10.9となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合は前期13社の35.1%から2社減り29.7%、「不变」は前期9社の24.3%からこちらは2社増えて同じく29.7%、よって「減少」は前期15社と変わらない40.6%である。今期は「増加」企業が2社減って、その分が「不变」に回ったためDIが悪化したのである。

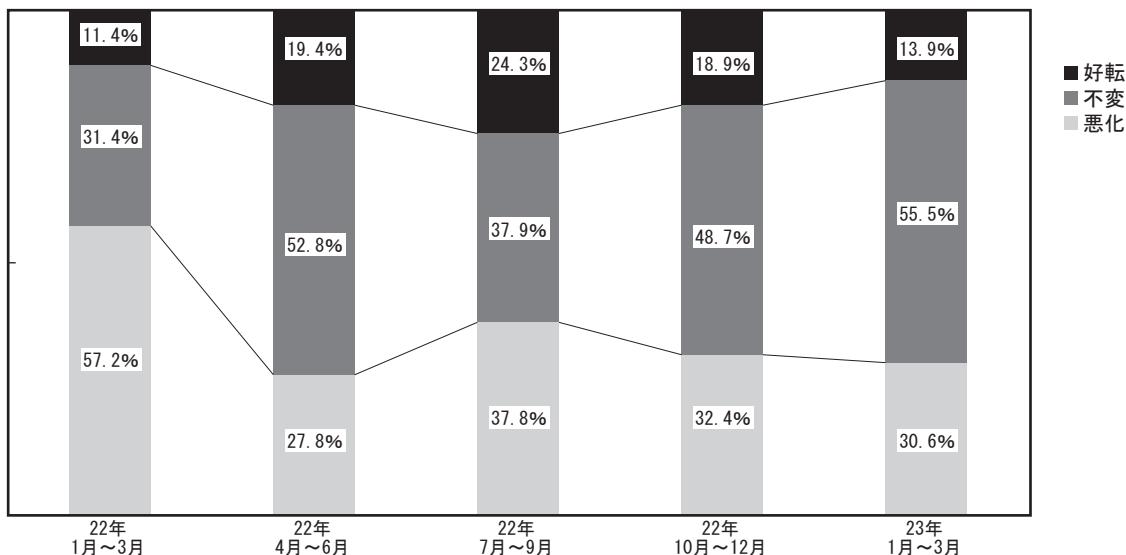


## (2) 採 算

本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。今期の採算D Iマイナス16.7についても、その詳細を見てみよう。「好転」が前期7社の18.9%から5社に減り13.9%、「不变」は前期18社の48.7%から2社増えて55.5%、「悪化」は前期12社32.4%から1社減の30.6%となった。よって、前期より約3ポイント悪化したのである。

山梨県 製造業

採算の状況－前年同期比－

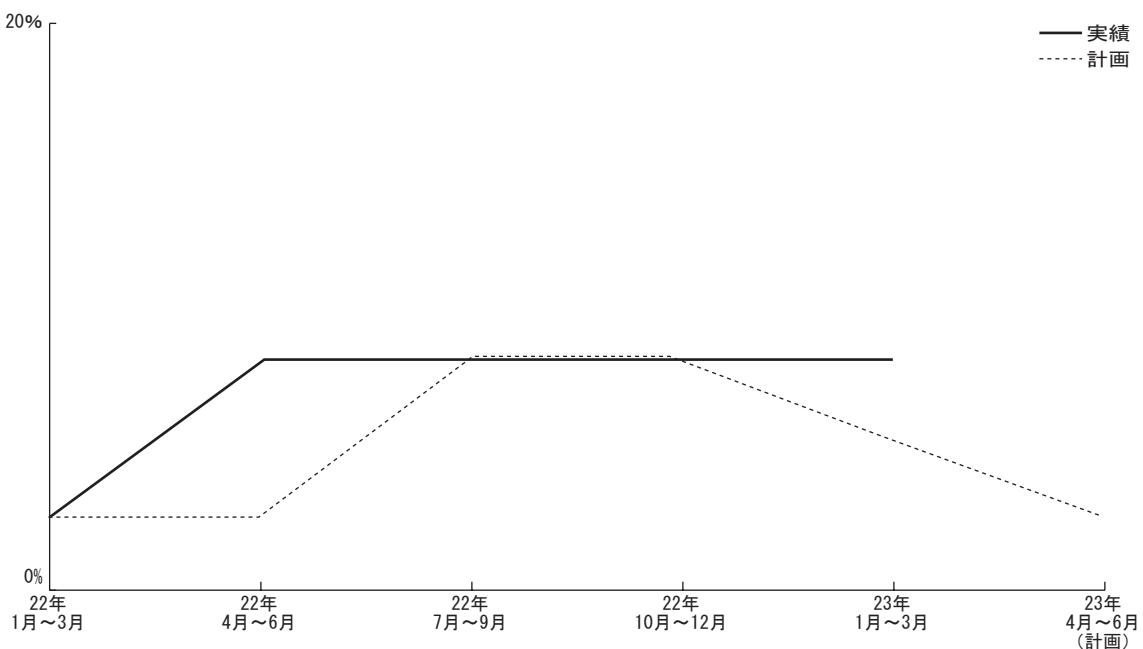


## (3) 設備投資

下図は、過去1年間余りの「設備投資」の状況を示したものである。設備投資した企業は、4期同数の3社であった。その内容は、「生産設備」3件と「車両運搬具」1件であった。来期において計画を予定している企業は1社のみである。しかし、当該企業は大型投資で「工場建物」「生産設備」「OA機器」「福利厚生施設」という一連の新規投資のようである。

山梨県 製造業

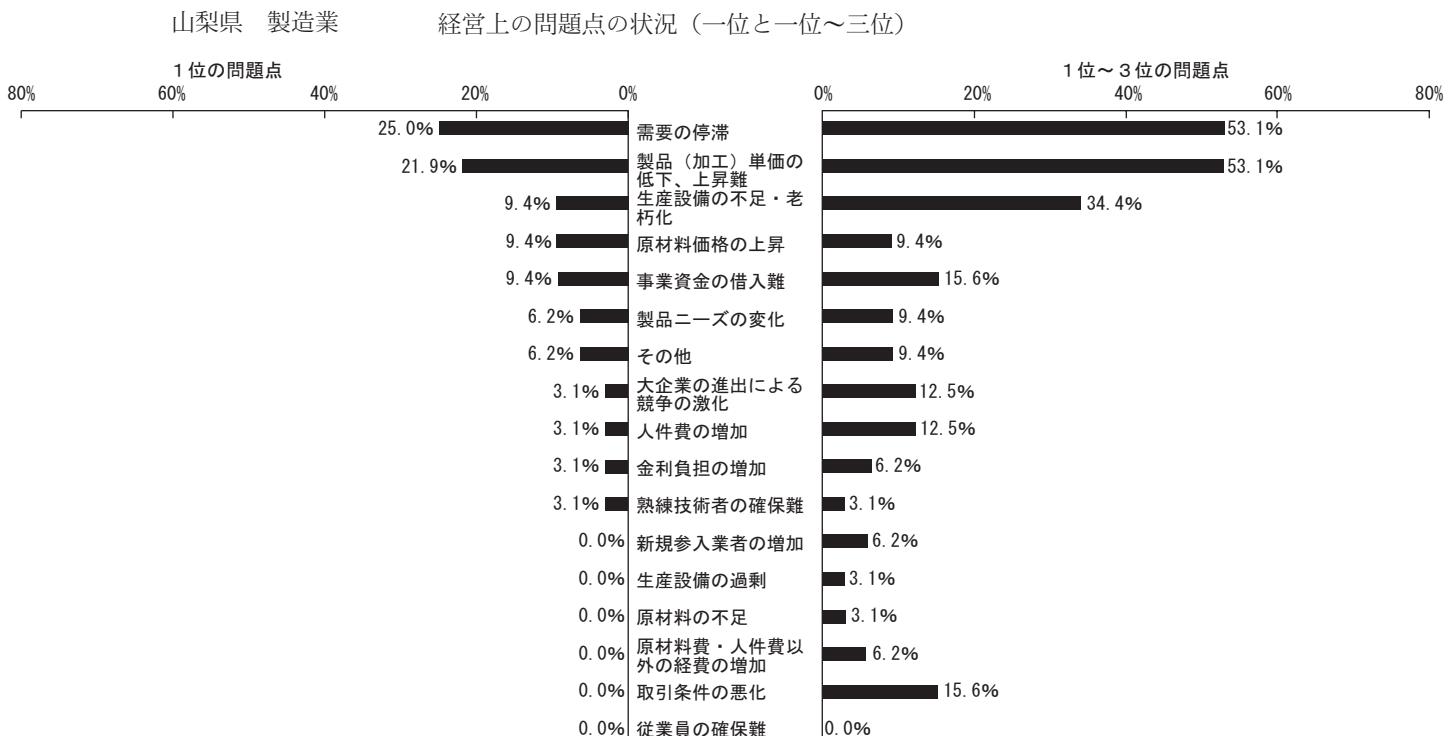
設備投資の状況



#### (4) 経営上の問題点

製造業における「経営上の問題点」は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、「需要の停滞」が相変わらずトップで8社の25.0%であった。しかし、前期11社に比べて少なくなった。2番目に多かったのは、「製品(加工)単価の低下、上昇難」で前期4社の12.9%から3社増えて21.9%である。続いて、「生産設備の不足・老朽化」「原材料価格の上昇」「事業資金の借入難」が各3社の9.4%であった。そして、「製品ニーズの変化」「その他」をそれぞれ2社が挙げた。

次に「1～三位」を見ると最も多い答えは、やはり「需要の停滞」と「製品(加工)単価の低下、上昇難」で17社ずつが挙げた。続いて、「生産設備の不足・老朽化」を11社が答え34.4%であった。その他の回答は何れも一ヶタ台で、「取引条件の悪化」と「事業資金の借入難」が各5社で15.6%である。前記したように、大震災および原子力発電所事故により需要の減少、そして操業度の抑制等需給両面から、今後の経営問題は深刻化しそうである。



#### (5) 回答企業の内訳

##### 業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	21.6
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	5	13.5
窯業・土石製品製造業	2	5.5
金属製品製造業	1	2.7
一般機械器具製造業	8	21.6
電気機械器具製造業	1	2.7
輸送用機械器具製造業	3	8.1
その他製造業	5	13.5
合計	37	100.0

##### 従業員規模別

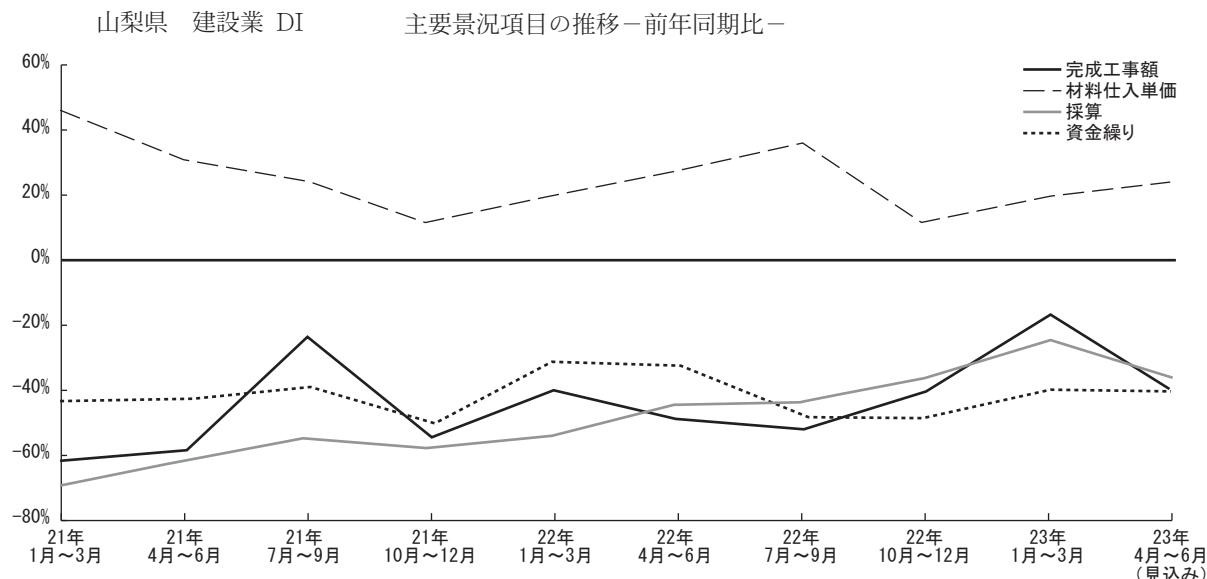
従業員数	雇用形態	常雇い		臨時等含む	
		企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	常雇い	17	46.0	12	32.5
3人～5人以下	常雇い	9	24.3	10	27.0
6人～10人以下	常雇い	5	13.5	7	18.9
11人～20人以下	常雇い	2	5.4	2	5.4
21人～50人以下	常雇い	4	10.8	6	16.2
合計	常雇い	37	100	37	100.0

### 3. 建設業の動向

#### 1. 景況概観

完成工事額DIは、前期マイナス40.0からマイナス16.0と大幅な回復をみせた。しかし、来期の見通しについては、前期レベルに戻ってしまう予測のマイナス40.0である。材料仕入単価DIは、前期12.0とかなり低下したが今期は再び上昇し20.0になった。来期の見通しについては、さらにいくらかの上昇で24.0である。採算DIは、前期マイナス36.0から12ポイント改善しマイナス24.0であった。来期の見通しについては、「完成工事額」と同様に前期DIに戻ってしまう悪化予測である。資金繰りDIは、前期マイナス48.0から多少改善のマイナス40.0である。来期の見通しも、今期と全く変わらないマイナス40.0である。

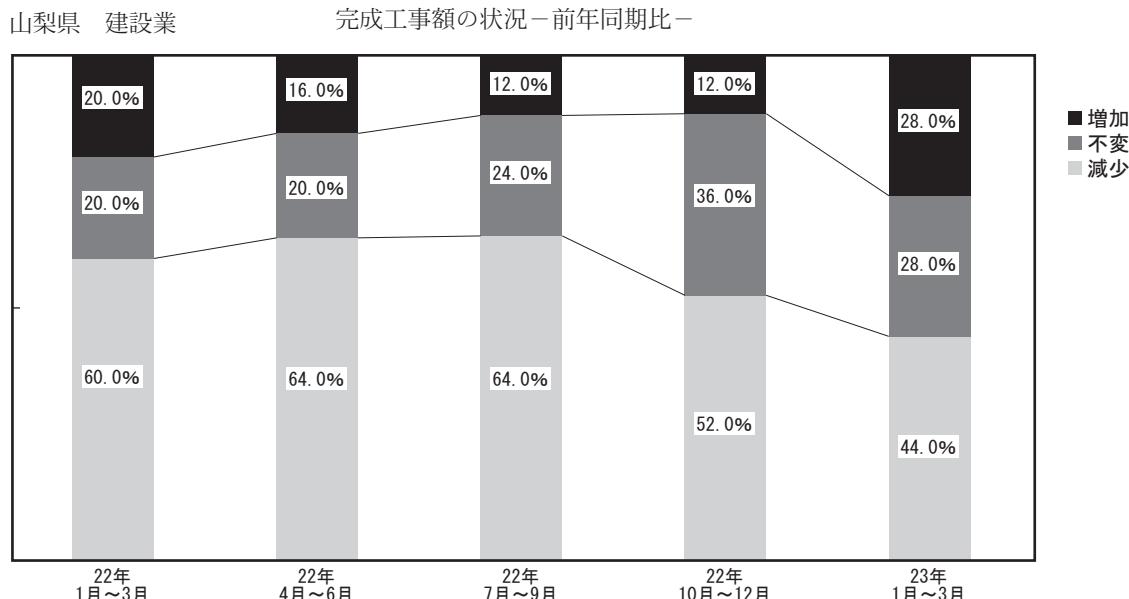
材料仕入単価DIが上昇したのは気になるところであるが、収益や資金面が改善したことは明るい。だが、こうした回復基調が来期にまで及びそうもないのが残念である。



#### 2. 主な項目で見る業況

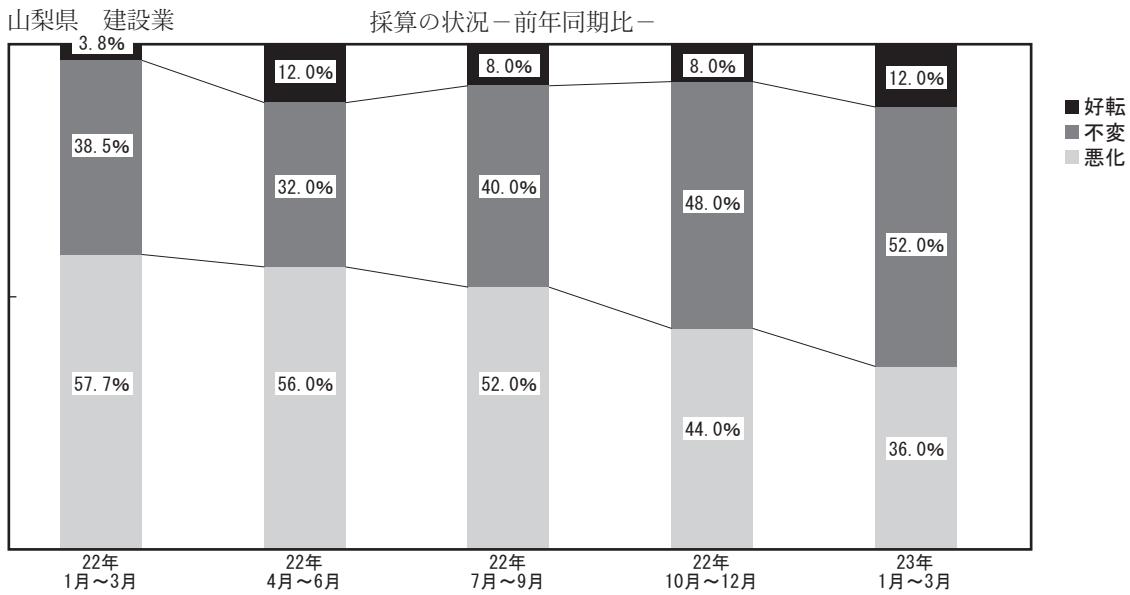
##### (1) 完成工事額

過去1年余の「完成工事額」の状況の推移を表わしたもののが下図である。今期完成工事額DIマイナス16.0の内訳をみると、「増加」が前期3社の12.0%から7社に増えて28.0%、「不变」は前期9社の36.0%から7社になり28.0%、「減少」は前期13社の52.0%から11社に減り44.0%であった。今期は「増加」が4社増え、「減少」が2社減って大幅な改善に繋がったのである。ちなみに、今期の受注(新規契約工事)額についてみると、こちらもマイナス20.0とかなりの改善を見せた。しかし、来期見通しはマイナス52.0で、新年度という季節的要因であろうか大きく下降する。



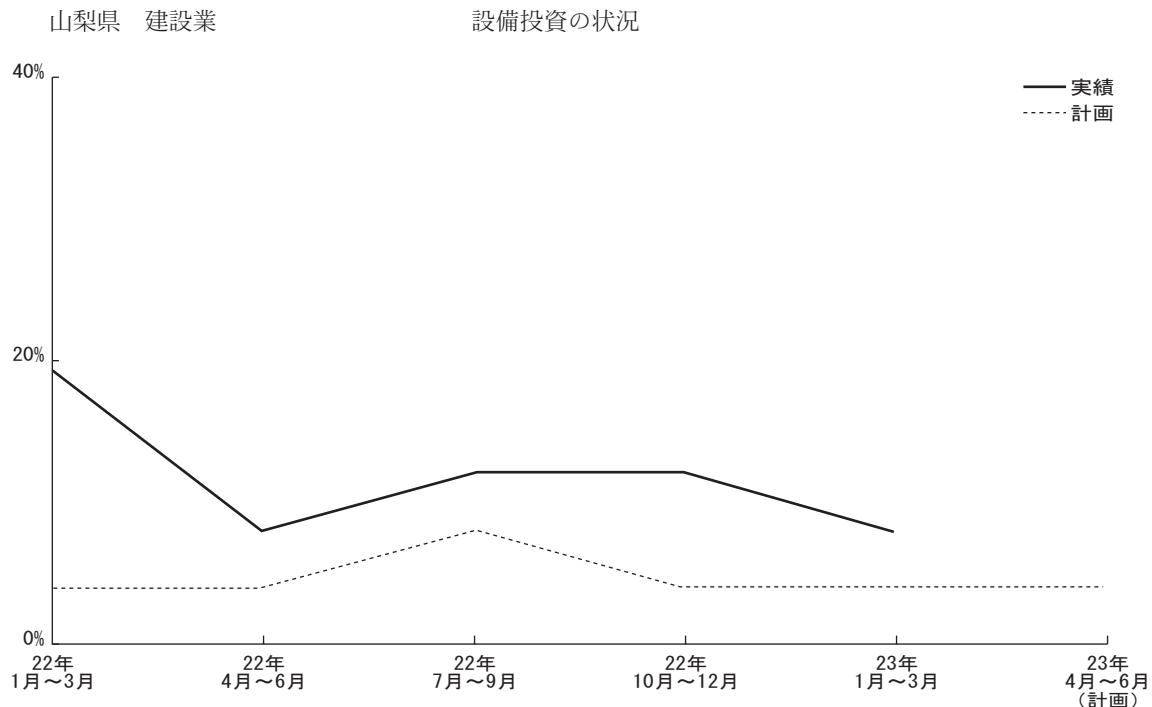
## (2) 採 算

「採算」状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D Iマイナス24.0%の内訳は、「好転」が前期2社の8.0%から3社に増え12.0%、「不变」もこちらも前期12社の48.0%から13社に増えて52.0%、「悪化」は前期11社の44.0%から9社に減って36.0%となった。今期D Iは、「好転」が1社の増加、「悪化」が2社減少しての改善結果であった。



## (3) 設備投資

設備投資を実施した企業は、前期3社から1社減であった。その内訳は「土地」と「その他」が1件ずつであった。来期の計画は1社のみで「車両運搬具」である。前期における来期の見通しと全く同じである。相変わらず、設備投資意欲が出てこない環境が続く。



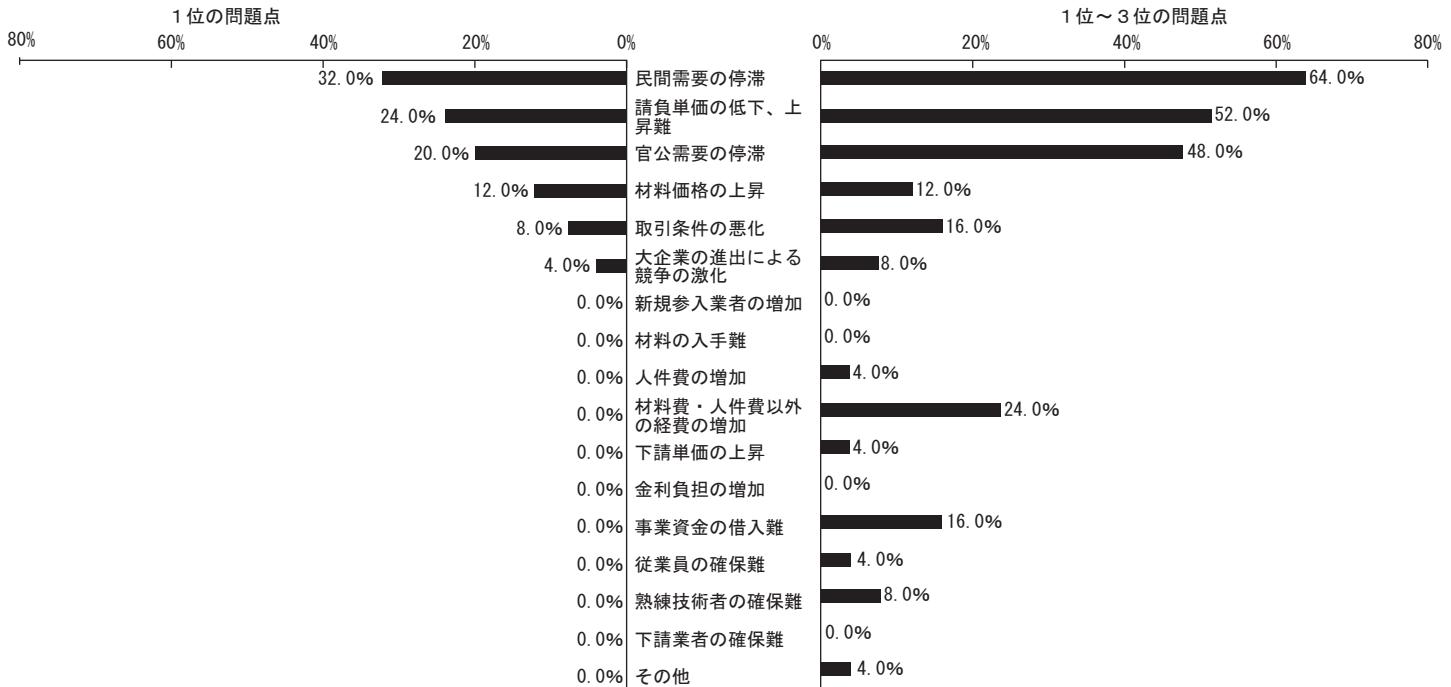
#### (4) 経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、最も多いのが「民間需要の停滞」で8社が挙げて32.0%である。続いて「請負単価の低下、上昇難」で6社の24.0%である。さらに「官公需要の停滞」が5社の20.0%と続く。

「次に「一～三位」を見ると、上記の「一位」のベストストリーと変わらなかった。トップが「民間需要の停滞」で16社の64.0%である。二番目も「請負単価の低下、上昇難」で13社の52.0%、三番目も「官公需要の停滞」で12社の48.0%であった。続く四番目は、かなり少なく6社の回答で「材料費・人件費以外の経費の増加」で24.0%である。その他の回答は、4社以下が答えるにとどまった。

山梨県 建設業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



#### (5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	17	68.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

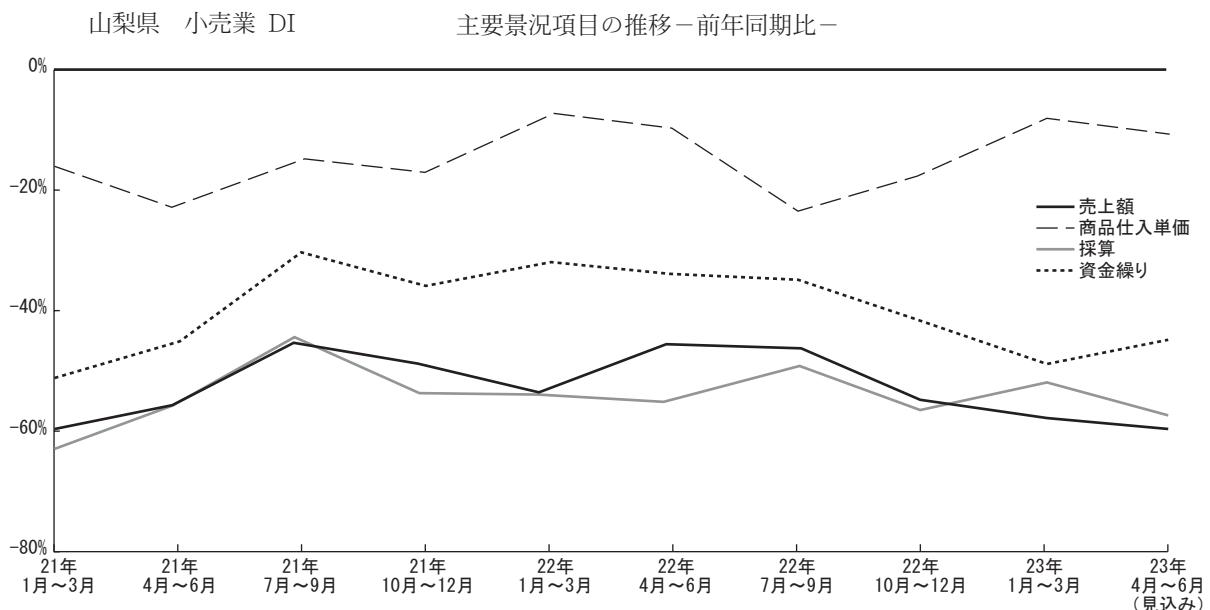
従業員規模別

従業員数	雇用形態		常雇い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	8	32.0	6	24.0		
3人～5人以下	7	28.0	7	28.0		
6人～10人以下	2	8.0	4	16.0		
11人～20人以下	6	24.0	6	24.0		
21人～50人以下	2	8.0	2	8.0		
合計	25	100	25	100.0		

## 4. 小 売 業 の 動 向

### 1. 景況概観

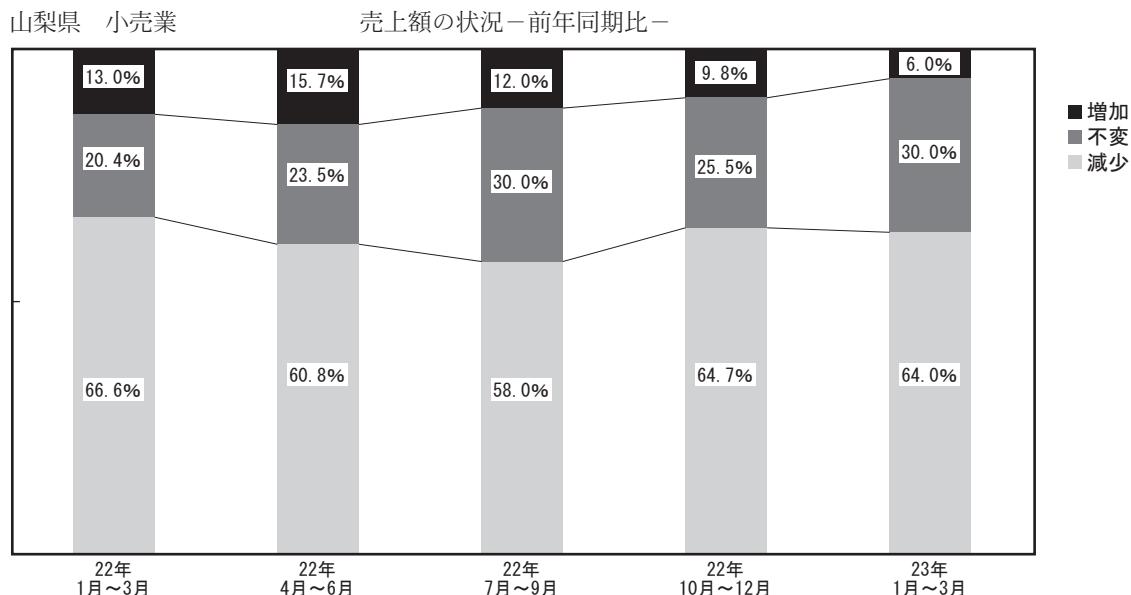
「売上額」DIは、前期マイナス54.9から若干低下してマイナス58.0である。来期の見通しについては、さらに落ち込んでマイナス60.0で低下基調が続く。商品仕入単価DIは、前期マイナス17.6から10ポイント近く上昇してマイナス8.0となった。来期の見通しは、マイナス10.2でほぼ横ばいで推移する。採算DIは、前期マイナス56.9からわずかの好転でマイナス52.0である。来期の見通しは、再び前期レベルに戻りマイナス57.2である。資金繰りDIは、前期マイナス42.0から7ポイント悪化のマイナス49.0である。来期の見通しは、マイナス44.9とわずかに好転する。小売業DIの来期以降の見通しであるが、大震災等による催しの自肅ムードの中、一層の消費マインドの冷え込みが懸念される。



### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

下図は、ここ1年間余りの「売上額」状況の推移を示したものであるが、今期の売上額DIマイナス58.0の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は、前期5社の9.8%から3社に減り6.0%となった。「不变」企業は、前期13社の25.5%から15社に増えて30.0%、「減少」企業は前期33社の64.7%から32社の64.0%であった。

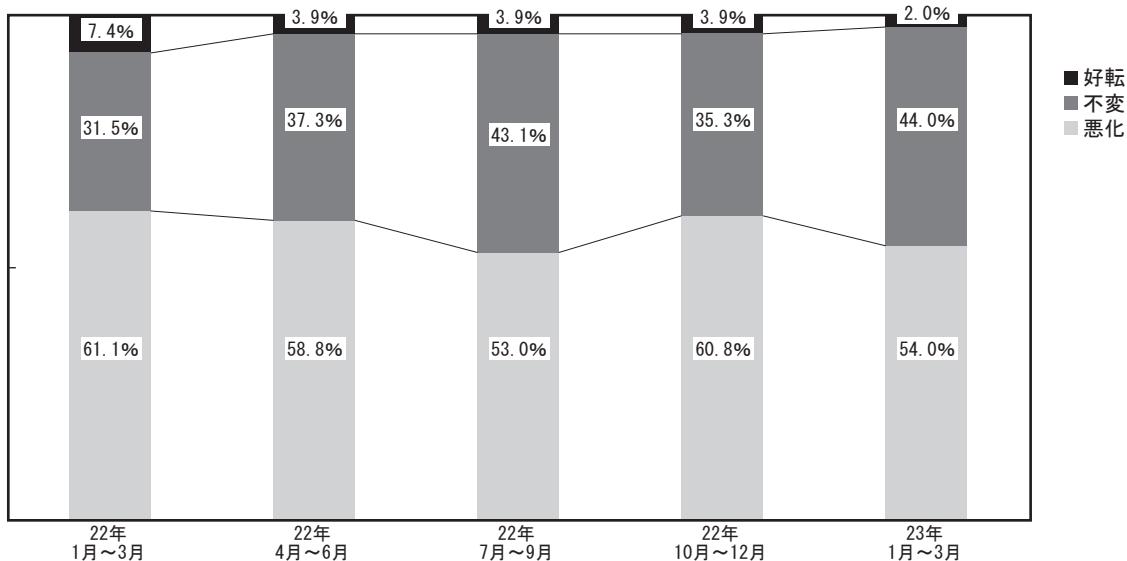


## (2) 採算

下図も、この1年間余りの「採算」状況の推移を示したものである。今期の採算DIマイナス52.0の内訳をみると、「好転」は3期続けての2社の3.9%から1社のみとなり2.0%、「不变」は前期18社の35.3%から前々期と同数の22社に戻り44.0%に、「悪化」は前期31社の60.8%から27社の54.0%となった。今期、採算DIが改善したのは、「悪化」と答えた企業の減少が要因といえる。

山梨県 小売業

採算の状況－前年同期比－

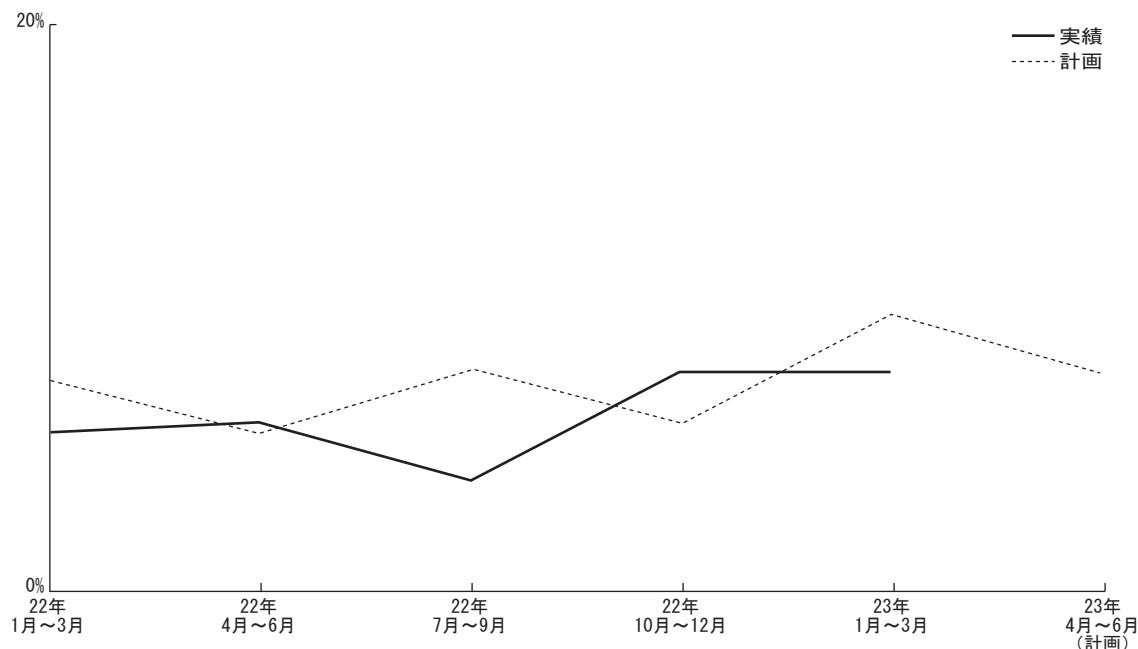


## (3) 設備投資

小売業の今期における「設備投資」状況をみると、前期4社と変わらず今期も同数であった。その内容は「店舗」と「その他」が2件ずつ、「販売設備」と「OA機器」が1件ずつであった。来期に設備投資を計画している企業も4社である。その内訳は「販売設備」と「OA機器」が各2件、「店舗」と「その他」が各1件である。厳しい経営環境が続くが、小売業にあっては一定の設備投資を維持していると言える。

山梨県 小売業 DI

設備投資の状況



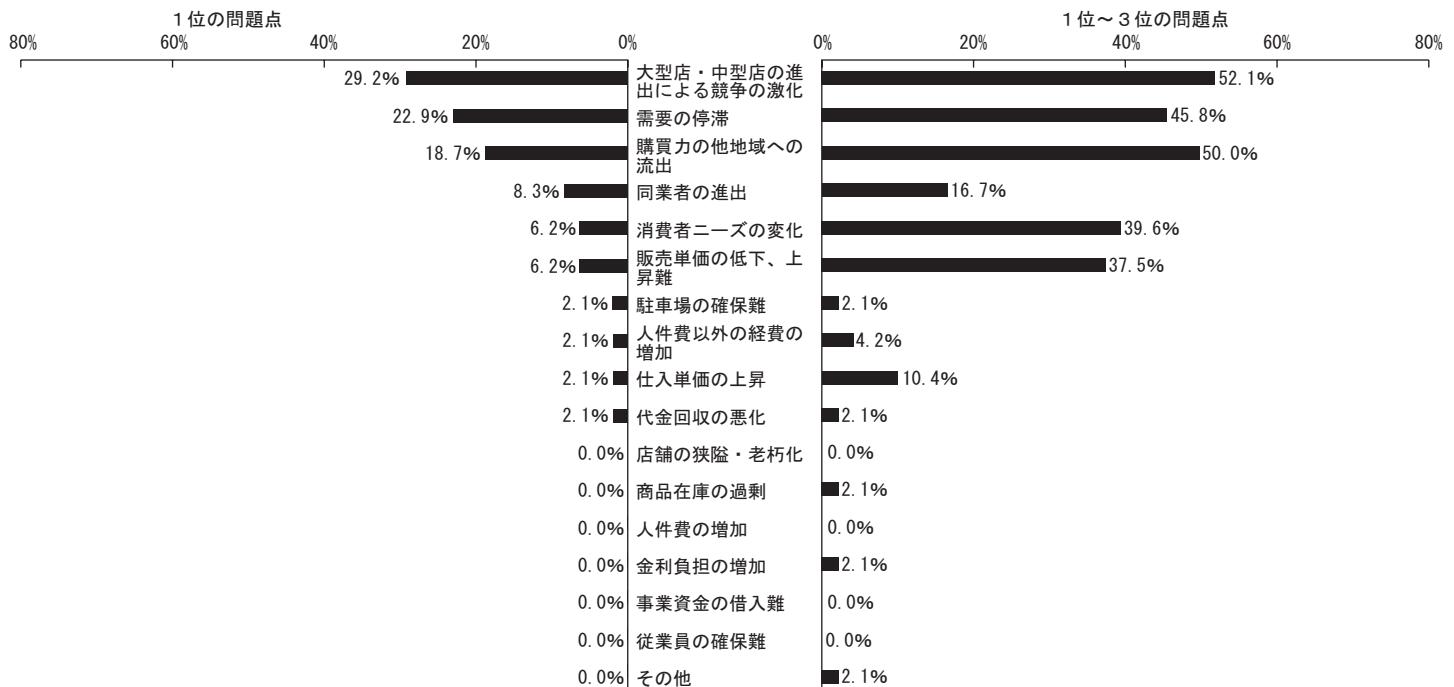
#### (4) 経営上の問題点

「一位」に挙げてもらったものから見ていくと、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が5期続けてトップで、前期17社の35.4%から3社減って29.2%となった。2番目も引き続き「需要の停滞」で、前期10社の20.8%から1社増えて22.9%であった。3番目は、「購買力の他地域への流出」で9社の18.7%であった。これら以外的回答は、4社以下が答えるにとどまった。

次に「一～三位」に挙げられた答えをみると、こちらも「大型店・中型店の進出による競争の激化」が最も多く25社の52.1%、続いて1社少なく「購買力の他地域への流出」で24社の50.0%であった。この二回答は半数を超えた。さらに「需要の停滞」が前期トップの27社56.2%であったが、今期は22社の45.8%に減った。「消費者ニーズの変化」19社の39.6%、「販売単価の低下、上昇難」18社の37.5%と続いている。これら以外の回答は8社以下であった。今期3月に、昭和町に県下最大の売場面積を持つ「イオンモール甲府昭和」が開店し、限られた地域にますます買物客が集中する傾向になるものと思われる。今後、「一～三位」の上位2つ回答が多くなるのではなかろうか。

山梨県 小売業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



#### (5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	10	19.6
飲食料品小売業	13	25.5
自動車・自転車小売業	4	7.8
家具・建具・じゅう器小売業	7	13.8
その他小売業	17	33.3
合計	51	100.0

売場面積別

売場面積	企業数	構成比(%)
50m <sup>2</sup> 未満	28	54.9
50m <sup>2</sup> ～100m <sup>2</sup> 未満	16	31.4
100m <sup>2</sup> ～200m <sup>2</sup> 未満	4	7.8
200m <sup>2</sup> ～500m <sup>2</sup> 未満	1	2.0
500m <sup>2</sup> ～1000m <sup>2</sup> 未満	2	3.9
合計	51	100.0

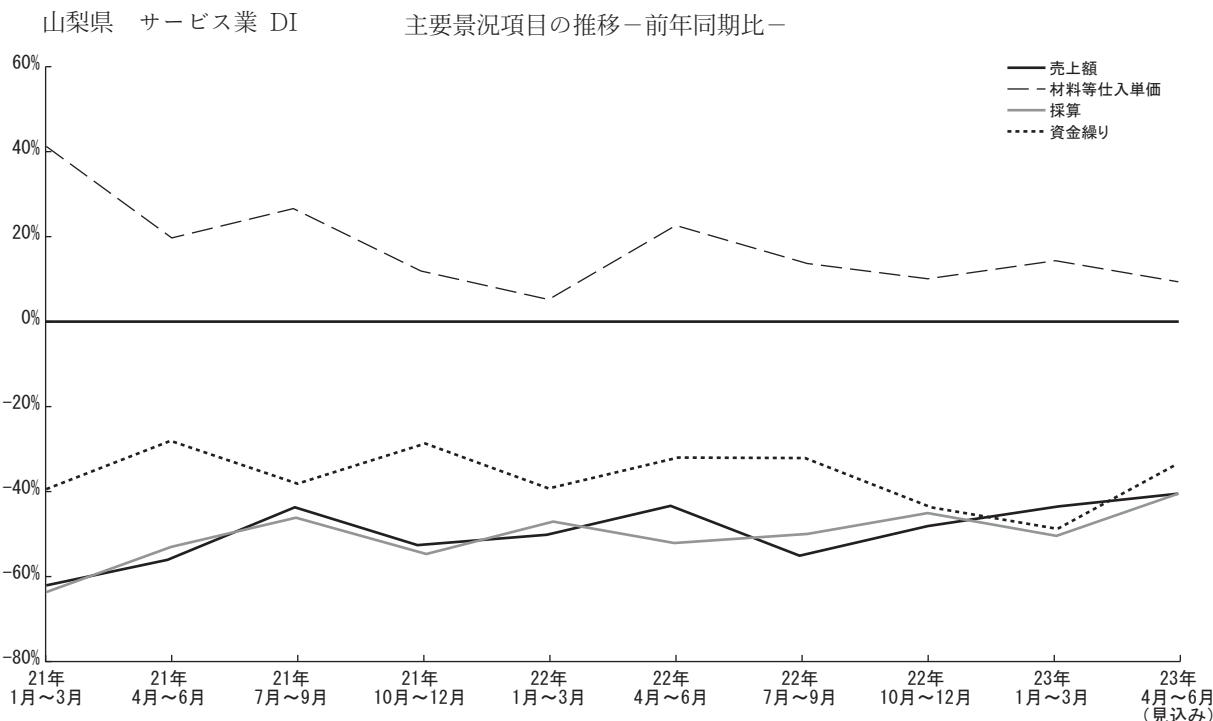
従業員規模別

従業員数	常雇い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	42	82.4	39	76.5
3人～5人以下	9	17.6	10	19.6
6人～10人以下	0	0.0	2	3.9
合計	51	100.0	51	100.0

## 5. サービス業の動向

### 1. 景況概観

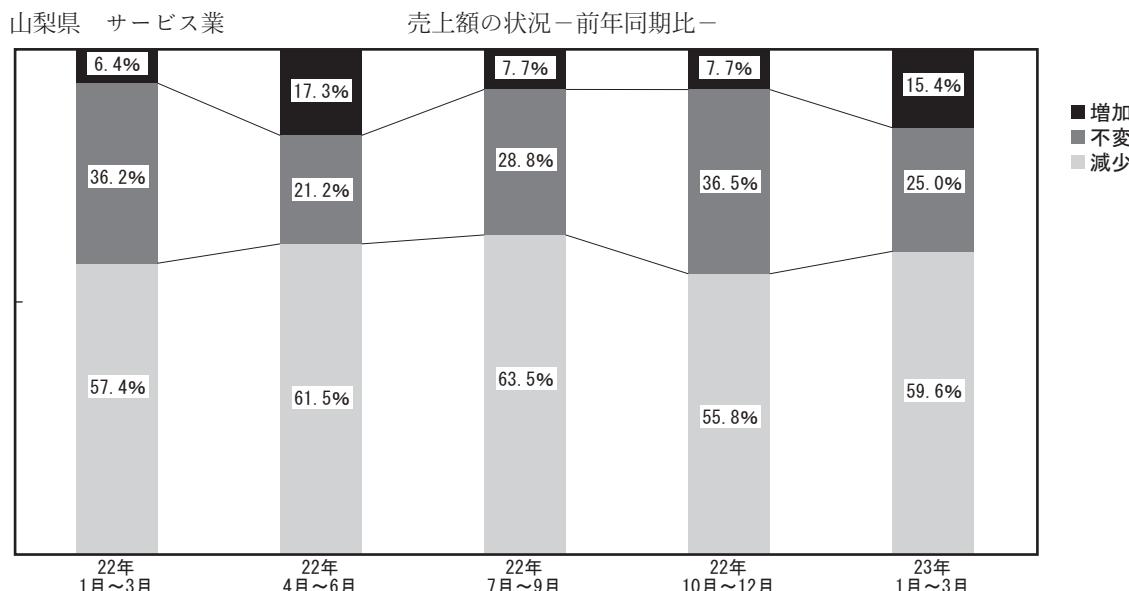
サービス業における売上額DIは、前期マイナス48.1からマイナス44.2へと多少の改善を見せた。来期の見通しについては、今期と同じくらいのテンポで4ポイントほどの改善で進む。材料等仕入単価DIは、前期9.8から13.7へといくらかの上昇を見せる。来期の見通しは前期と同じ9.8と低下する。採算DIは、前期マイナス45.1からマイナス51.0へ少々悪化する。来期の見通しについては、改善傾向を示してマイナス41.2である。資金繰りDIは、前期マイナス44.0から約5ポイント悪化しマイナス48.9となった。来期の見通しについては、大幅な改善を見込んでマイナス33.3である。



### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

この1年間余りの「売上額」の推移状況から、当期売上額DIマイナス44.2の分析をすると「増加」が前期4社の7.7%から8社に増えて15.4%、「不变」は前期19社の36.5%から13社に減り25.0%に、「減少」は前期29社の55.8%から31社に増え59.6%となった。今期DIの改善の理由は、「減少」企業数の伸びより「増加」企業数の伸びが上回ったためである。

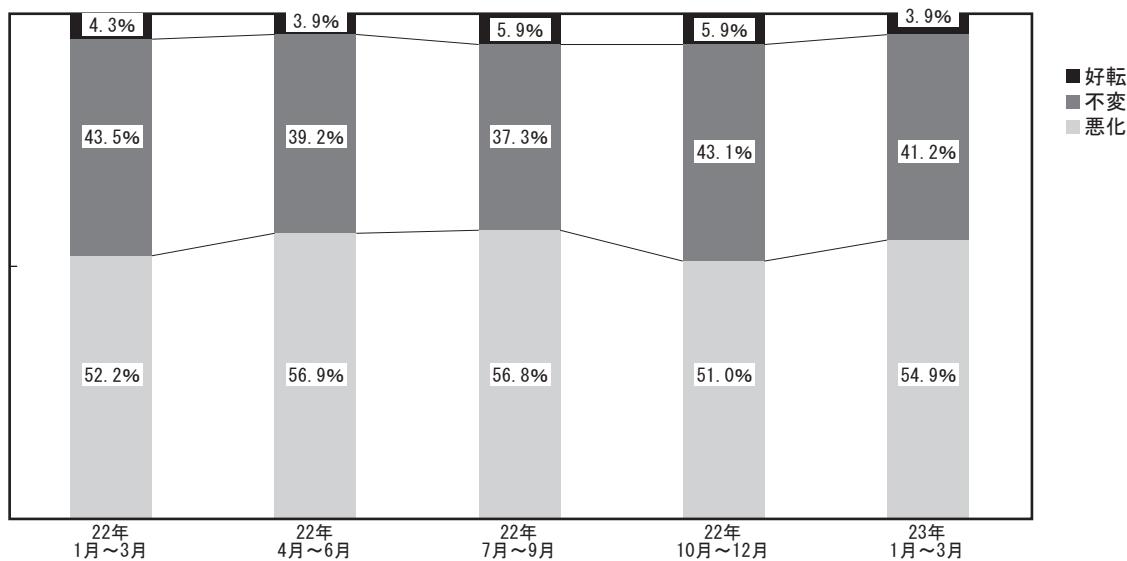


## (2) 採算

今期採算D Iマイナス51.0の内訳は、「好転」が前期3社の5.9%から2社に減り3.9%に、「不变」は前期22社の43.1%から1社少なく41.2%に、「悪化」は前期26社の51.0%から28社の54.9%になった。採算面では「好転」が減り「悪化」が増えたので、当然の結果としてD Iが低下したのである。

山梨県 サービス業

採算の状況－前年同期比－

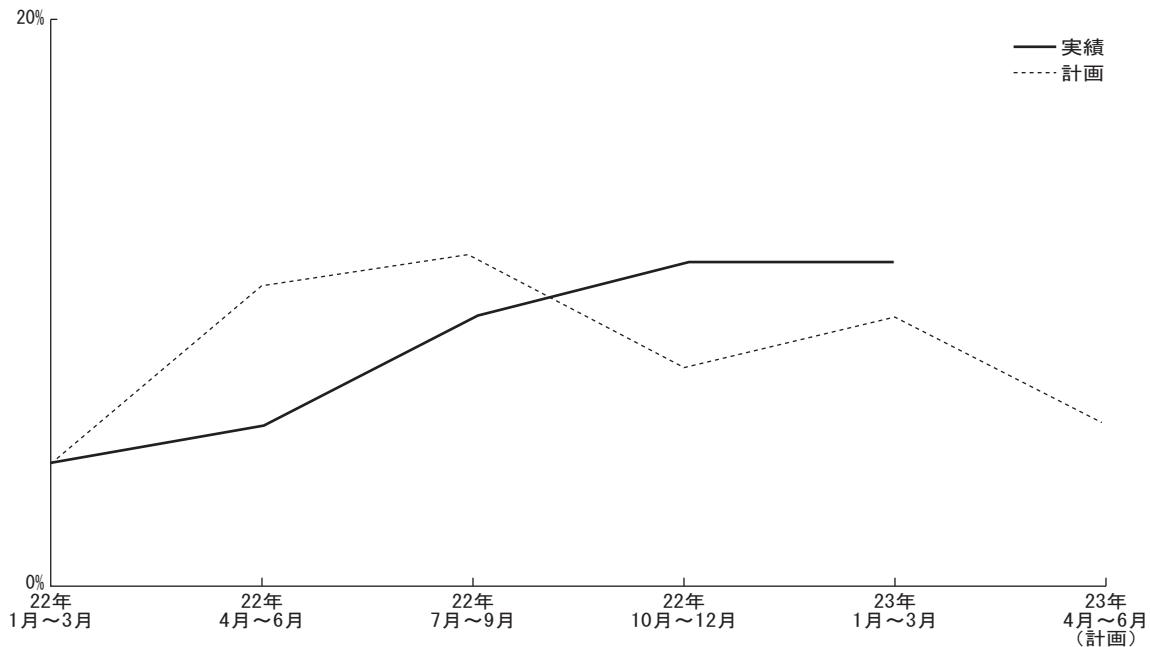


## (3) 設備投資

サービス業で「設備投資」を行った企業は、前期6社の11.5%と変わりなかった。その内容は「サービス」が3件、「その他」が2件、「付帯施設」と「OA機器」が1件ずつである。来期の計画については3企業に止まっている。「建物」と「サービス」が各2件、「土地」「車両・運搬具」「その他」が各1件である。

山梨県 サービス業

設備投資の状況



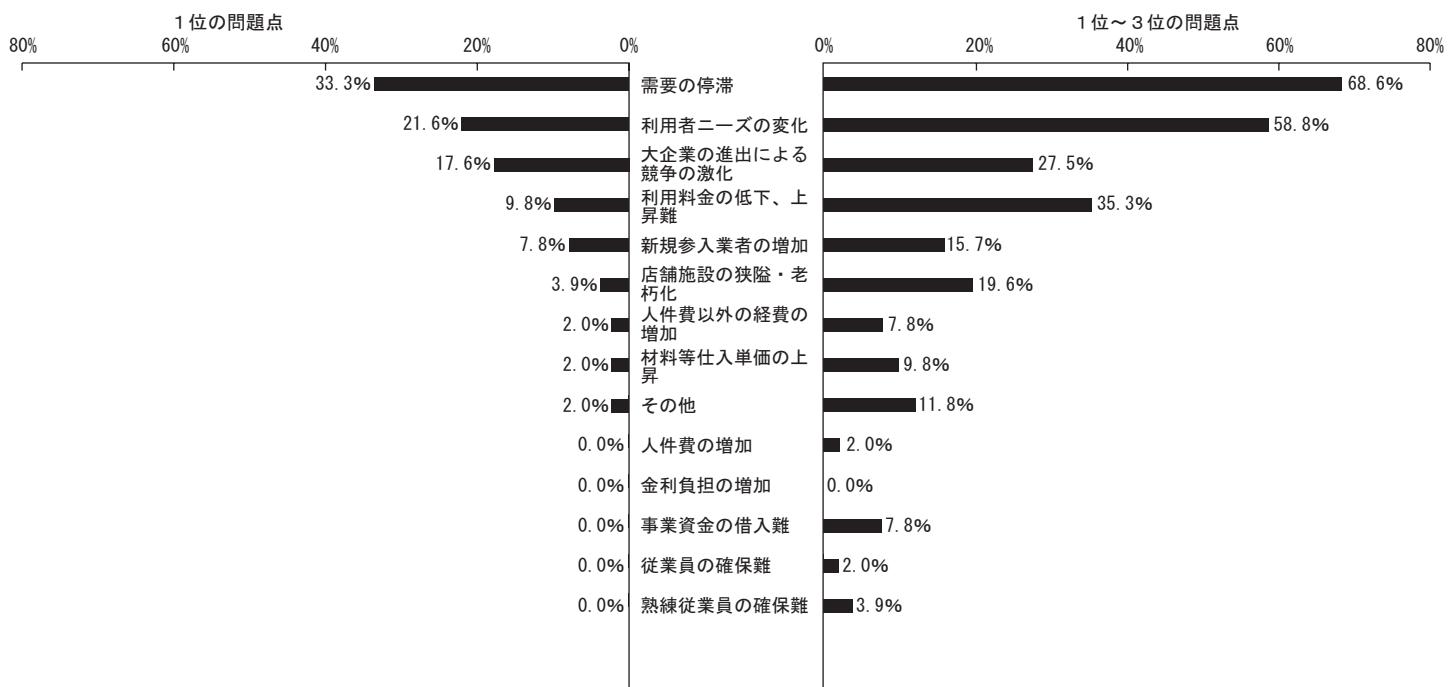
#### (4) 経営上の問題点

サービス業の「経営上の問題点」は、「一位」に挙げた項目の中では前期と同じ「需要の停滞」がトップで、15社の28.8%から17社の33.3%と増加した。続いて「利用者ニーズの変化」で、こちらも前期と同様11社が挙げ21.6%であった。そして「大企業の進出による競争の激化」が9社の17.6%である。これら3回答以外に目立つものとしては、「利用料金の低下、上昇難」が5社、「新規参入業者の増加」が4社であった。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、こちらもトップは「需要の停滞」で35社が挙げ前期より5社増えて68.6%、続いて「利用者ニーズの変化」が30社の58.8%で前期より4社少ない。この2つの回答は過半数である。後は、この2つよりかなり少なく18社が挙げた「利用料金の低下、上昇難」で35.3%、14社27.5%の「大企業の進出による競争の激化」、10社19.6%の「店舗施設の狭隘・老朽化」、8社15.7%の「新規参入業者の増加」と続いている。残りは5社以下の回答に止まっている。

山梨県 サービス業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



#### (5) 回答企業の内訳

##### 業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	12	23.1
宿泊業	8	15.4
自動車整備業	4	7.7
洗濯・理美容業	20	38.5
その他のサービス業	8	15.3
合計	52	100.0

##### 従業員規模別

従業員数	雇用形態	常雇い		臨時等含む	
		企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	常雇い	41	78.9	36	69.2
3人～5人以下	常雇い	6	11.5	9	17.4
6人～10人以下	常雇い	4	7.7	5	9.6
11人～20人以下	常雇い	1	1.9	1	1.9
21人以上	常雇い	0	0.0	1	1.9
合計		52	100.0	52	100.0